

第13回特別展

— 一期は夢よただ狂へ —

桃山時代の祭礼と遊楽

「今が弥勒の世なるべし」（慶長見聞集）と記され、万民が楽しみに会えるといわれた桃山時代。この、はかないが故にいっそう華やかであった〈黄金の日々〉を生きぬいた人々の姿は、近世初期風俗画と呼ばれる一群の絵画の中に、あざやかに写し取られている。

本展はそれらのうち祭礼図と遊楽図にスポットをあて、室町時代末期から江戸時代初期にかけての諸相を概観したものである。

会期／昭和61年1月15日（水・祝）～2月23日（日）

会場／特別展示室1・2、南蛮美術館

主催／神戸市立博物館、神戸市教育委員会

後援／朝日新聞社

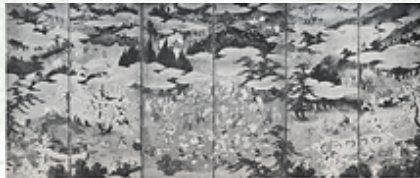
開館日数／35日

入館者数／15, 769人

出品件数／38件73点



※この図録は完売いたしました。



花下群舞図